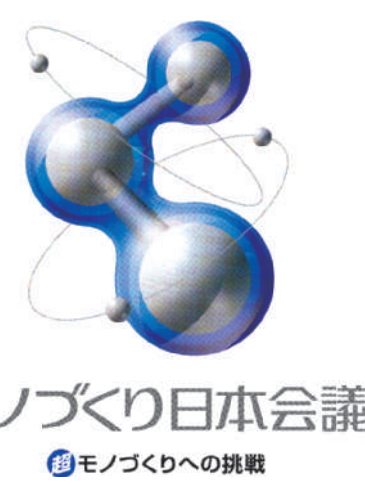


オンデマンド配信中

「多様な人材・働き方」高度外国人材活用のすすめ

モノづくり日本会議は人材育成研究会として「多様な人材働き方」高度外国人材活用のすすめを9月16日までオンデマンド配信する。労働力人口減少に対応するためだけでなく、多様な人材働き方の促進といった観点からも、高度外国人材の積極的な活用が求められている。経営者の立場から見た研究者や、実際に人材を活用しているモノづくり企業、人材紹介企業といったそれぞれの視点から徹底討論する。【配信についての問い合わせはモノづくり日本会議へ】



ウチダ 社長	内田 祥嗣氏
日高工業 総務部課長	吉川 芳明氏
ビーバース 社長	山本 大輔氏
【モデレーター】	
神奈川大学 経営学部 国際経営学科教授	湯川 恵子氏

湯川 本セミナーでは高度外国人材の制度を発信して認知してもらい、活用のメリットや問題点を考える。まず高度外国人材そのものを紹介いただきたい。山本 高度外国人材紹介を行っている当社では、海外もしくは日本の大学を卒業して、専門性・専門知識を持ち、日本語能力も高く、技術・人文知識・国際業務といった「技術人ビザ」を申請・取得し、日本企業で働く人材、と定義する。当社は技能実習生、特定技能の方々と関わっているが、高度外国人材は日本語能力と専門性が高い。日本語能力試験のレベルでN3以上の方を紹介している。行政書士とも連携しスムーズにビザ申請サポートも行っている。

パネルディスカッション



コロナ禍で上昇率は鈍っているがニーズは右肩上がりだ。当社は建設業、製造業向けに紹介しているが、人不足を解決する手段として必要とされている。また外国人材活用に対する理解も進んでいる。既存の日本人社員への良い刺激にもなっているのではないかと。湯川 本に根付く。湯川 実際は受け入れてくれる企業にうかがいたい。内田 当社は自動車部品デ

「なにかハンドシリーズ」はロボットハンドなどに用いて、12本のシャフトがワークの凹凸にならってロックスの機構を装備する。当初ボールベアリングの鋼球で軸を固定しようと考えたが、ひょうたん形のローラーを思い付き、ロックした時の回転を抑えた。村瀬 20年度に電気・電子部品の電池レス熱電圧計振動センサデバイスが受賞した。回転機器の廃熱を利用した熱電エネルギーハーベスティング(HEI)

吉川 自動車部品を中心に金属熱処理を行っている。06年に海外進出の計画が持ち上がり、ベトナムを候補地とし、現地コーディネーターを通じてベトナムの大学を出た埋系の3人を採用した。日本でも動き、学習し、リーマン・人材の方が埋めてくれている。現在9人いるが、ほとんどが動いている人からの紹介だ。知り合いの中で働くので、辞めたりしない。ベトナム

信頼関係・対話が重要



山本 採用に当たって気をつけるべきポイントは、まず給与形態や保険料の天引きといった細かい点を最初の求人票の段階で理解してもらうこと。これで離職率はかなり下がる。また、5年後、10年後にあなたをどう評価するかと考えているか、キャリアプランを明確にすることが、この仕事ができることだ。ジョブ型雇用にもつながり、彼らが重視するワークライフバランスの充実も含めて、企業が高度外国人材の考え方に合わせることも、日本が向かっていくべき方向性に近いのではないかと。湯川 高度外国人材を受け入れ推進に向けた議論をしてきたが、こうした流れは続けていくべきか。内田 その仕事に魅力を感じてもらえれば日本人であらうが外国人だろうが、共に働いていきたい。吉川 今働いている方たちの優秀さを感じると、今後もそうしたい人材に日本に来てもらいたい。

あふれるバイタリティー！向上心

湯川 彼らのバイタリティーや向上心は日本人にも伝播する。閉塞感のある日本人のマインドを刺激し、明るい会社になるのではないかと。一緒に働く人が外国人かもしれないといった心理的な壁を破り、相互理解して、多様性に乗り出していくことに意味がある。

いま求められる技術とは

き、受賞部品が日本の産業を支えるものだと感じた。部品の紹介や開発の際、何が大変だったか伺いたい。小宮 21年度に機械・ロボットの部品賞を受賞した。ボット部品賞を受賞した。初ボールベアリングの鋼球で軸を固定しようと考えたが、ひょうたん形のローラーを思い付き、ロックした時の回転を抑えた。村瀬 20年度に電気・電子部品の電池レス熱電圧計振動センサデバイスが受賞した。回転機器の廃熱を利用した熱電エネルギーハーベスティング(HEI)

超モノづくり部品大賞関連企画

パネルディスカッション

THK 産業機器統括本部 技術本部専任部長 小宮 吉一氏
KELK 熱電発電事業部部長 村瀬 隆浩氏
【モデレーター】
東京工業大学 学長 益 一哉氏



THKとKELKが開発秘話披露 産業支える部品・部材



リズ化して製品拡充を図ってきた。産業機械の省電力に貢献してきた自負があるが、仮説を立ててマーケティングするニーズ先行の開発も手がけている。村瀬 熱電発電はエネルギー効率が良い。製品のコストも高く、マーケットがそれほどない。付加価値をいけるため、さまざまな技術を組み合わせて、顧客問題の解決型に進んでいる。益 常に市場と技術の動きを見ることが重要。開発はサイバーだけでなくフィジカルがきちきちあつてこそ、新しい社会を生む。

超モノづくりへの挑戦

「モノづくり日本会議」は、2007年9月に設立した「モノづくり推進会議」での活動を土台に、広域企業ネットワークや他機関との連携を活用し、日本のモノづくり産業の強化に役立つ実践的な勉強会・シンポジウムなどのイベントや交流会などの活動を展開しており、日刊工業新聞社が事務局を務めさせていただいている団体です。少子高齢化、環境対応、資源・エネルギー問題など様々な課題を乗り越え、「超モノづくりの推進」をテーマに、事業を進めております。これまでの取り組みを発展・拡充させるとともに、IoTやAIを含めたロボット産業や「防災・イノベーション」など、横断的なテーマについては、より実践的な成果を目指します。先進的な技術やノウハウを有する会員企業をはじめ、多彩な連携機関のご協力をいただき、モノづくり産業のさらなる発展を目指して事業を展開し、モノづくり産業の競争力強化につながるよう、地域間、企業間連携をおこない、ビジネスマッチングなども図っていきます。

モノづくり日本会議の事業

グローバル競争力強化関連事業

- ・モノづくり力徹底強化検討会
- ・人材育成関連事業
- ・長寿企業イノベーション勉強会
- ・ビジネスモデル価値創造研究会
- ・新モビリティ研究会
- ・次世代機械設計研究会

新産業・ビジネス創出／ビジネスモデル構想力向上検討事業

- ・新産業技術促進検討会
- ・ロボット研究会
- ・AI研究会

その他の事業コンテンツ

- ・顕彰事業
- ・超モノづくり部品大賞
- ・モノづくり推進シンポジウム
- ・特別講演会
- ・地区別研究会
- ・交流・マッチング事業
- ・会員向け調査レポート

各事業の詳細は、モノづくり日本会議ホームページ (www.cho-monodzukuri.jp) をご覧ください。

